

(^_^)v 趣味に生きる (第39回) ~. ~. ~. ~. ~. ~.

ぶらり巡礼旅

大比良 ひとみ

(大阪医科大学附属病院 中央検査部)

◆旅のはじまり

元々私は出掛けるのが好きなのですが、一人で旅をするようになって観光名所や温泉などに気ままに出掛けていました。観光名所の一つとしてガイドブックには有名な寺社が紹介されています。日本の巡礼の特徴としては、宗教色がきわめて薄く、誰でも気軽に参加できるものなので、構えて取り組む必要はありません。そし

て巡礼自体が観光であったりします。

その中で、ある年の初詣時に出掛けた神社にて朱印帳を購入したのを転機として、積極的に寺社に出掛けるようになりました。今までに集まった朱印帳を写真1に示します。寺社へ参拝した際には、御朱印を頂いてきますのでいつの間にか朱印帳自体も増えてきています。



写真1 今までに集まった御朱印帳

◆巡礼地に行く

日本には数多くの巡礼地があります。一説では100を超える巡礼地があるそうです。主要な巡礼地には弘法大師ゆかりの四国88ヶ所霊場、西国、板東、秩父などの観音霊場、七福神、不動明王、六地藏めぐりなどがあります。主な霊場を表にあげてみます。この中で特に巡礼で有名なコースをあげると、四国88ヶ所、西国33ヶ所、百観音巡礼ではないかと思えます。この中で私が出掛けた所について少し述べます。

1. 四国遍路

四国遍路は、弘法大師の霊跡を巡る巡礼コースで、全てを巡ると四国を一周します(道中は約1200kmあります)。四国遍路の体験記は数多くあり、読んでみると遍路旅自体が面白そうで、出かけてみたいと思わせるものも多くありました。体験記は歩き遍路の通し打ち(1番から88番を一度に参拝する)が多く、出掛けてみたいと思っても仕事を持つ身には不可能だと思って

いました。しかし、体験記のなかには歩くだけではなく、車、公共交通機関を組み合わせる方法や、休暇を利用し少しづつ回るという区切り打ちという方法を活用することで、一度巡礼を試みることを勧めているものもありました。そこで区切り打ちという現代的な巡礼方法を活用し、面白そうという理由で出掛けることにしました。

四国88ヶ所は徒歩で遍路旅をしている人も多いです。バスツアーや自家用車にて回っている人もいます。私は徒歩と公共交通機関利用を併用してみました。四国の遍路道の特徴としては標識等もあり、徒歩でも歩きやすかったです。また標識自体が徒歩で回ることを前提に設置されているものもあります。面白い所は標識に従っているにも関わらず、よそ様の庭先を歩いたりしていることがあったことです(注意：道に迷ったわけではありません)。初めて庭先を歩いたときはかなり驚きました。なので、それからは

表 主な霊場

巡礼コース	特徴
北海道三十三所観音霊場	日本最北、最長で行程は2300km。
奥州三十三所観音霊場	岩手、宮城、福島の三県にまたがる。
出羽三山	羽黒山、月山、湯殿山の三山。東北の修験道の中心的霊山。
板東三十三所観音霊場	西国三十三所を関東に移して鎌倉時代に開創された霊場。
秩父三十四所観音霊場	西国・板東と合わせて日本百観音霊場として知られる。
善光寺/北向観音	全国から篤い信仰を集める。善光寺の参拝だけだと「片参り」になると言われている。
神仏霊場巡拝の道	近畿を中心とした百五十社寺を巡る、神仏一体の大霊場。
比叡山	天台宗の総本山。山上は東塔、西塔、横川の三エリアに分かれている。
関西花の寺二十五ヶ所霊場	花や紅葉に彩られる寺院を巡るというユニークな霊場。
西国三十三所観音霊場	日本で最も古い霊場といわれている。
高野山	真言宗の総本山。弘法大師信仰の象徴。
近畿三十六不動尊霊場	霊験著しい三十六の不動明王を巡る。
西国薬師四十九霊場	薬師如来のみを巡る霊場。
円光大師二十五霊場	江戸時代開創。法然上人の遺跡を巡る
四国八十八ヶ所	弘法大師の霊跡を巡る。全てを巡ると四国を一周する。
全国一ノ宮巡拝	日本全国の一ノ宮を巡る日本最大の巡拝

参考資料 1)~3)をもとに作成

四国へ行く時には見た目でお遍路さんとわかってもらえる装備をして出掛けるようにしています。また四国遍路には「お接待」という住民の方がお遍路さんに喜捨する文化が残っています。四国ではお茶などごちそうになりました。

私はすべてを歩き通したわけではありませんが、四国遍路でぜひ歩いてみてもらいたい場所の一つに11番から12番にかけての道中があります。ここはガイドブックでは「へんろころがし」と記載されている難所とされている道です。ガイドブックの標準所要時間は徒歩約6時間と記載されています。そのためにこの道中を歩く人は朝早くに11番を出発します。同じように歩いている人がいますので、抜きつ、抜かれつつ進むうちに、見ず知らずの人同士の中に妙な連帯感が発生します。そしてこの日に宿泊する宿が全く異なるのにも関わらず、その後2～3日はこの11番から12番にかけての山道で出会った人たちに出会い、道中を共にすることもあったりします。写真2は11番から12番にかけての道中で遭遇する、弘法大師像です。ちなみに歩き遍路の方しか出会うことができません。

2. 百観音巡礼

百観音巡礼は、西国・板東・秩父の各観音霊場をセットで巡礼する巡礼スタイルです。最初は西国のみ巡礼していたはずなのに成り行きで百観音巡礼を行うことになっていました。その西国巡礼のきっかけは、身近に手軽に出掛けら

れそうな巡礼地を探していたときに、近くに西国巡礼があるから一度出掛けてみようということになり、出掛けてみることにしました。

西国霊場の特徴は、京都の清水寺・六波羅蜜寺、奈良の興福寺など観光ガイドに必ず載っているような有名寺院も多くあり、札所寺院の周辺に立ち寄れる観光名所も多いことだと思います。したがって物見遊山を兼ねて気楽に出掛けることができる巡礼地ではないかと思っています。

百観音巡礼のきっかけは、西国12番の岩間寺で出会ったおじさんが百観音巡礼の最中だったからです。そのおじさんと話をしているうちに触発され、私も百観音巡礼を敢行してみることにしました。

先にも少し述べましたが、百観音巡礼は西国・板東・秩父の観音霊場をセットで巡ります。板東霊場は関東一円の広い範囲に札所寺院が分布しているため、思ったよりも移動に時間がかかったように記憶しています。鎌倉や日光近辺のように観光地化された所と、旅人が少ない場所とが交錯しています。

秩父霊場は秩父市とその周辺に札所があるため手軽に巡礼旅が楽しめます。秩父市内は道案内の標識も充実しているため歩きやすかったです。札所寺院は小じんまりとしているのがあります(写真3)。花の季節や、新緑、紅葉の頃に歩いてみると歩きやすいと思います。百観音



写真2 弘法大師像



写真3 秩父霊場の札所寺院

巡礼のときは朱印帳に御朱印をいただくのではなく、納経軸を作ってみました。5年くらいかかりましたが、無事に巡礼することができました。写真だと少し見えにくいのですが、写真4に完成した納経軸を示します。



写真4 百観音巡礼での納経軸

◆富士山へ行く

富士山がなぜ巡礼なのかと思われそうなのですが、富士山の頂上には神社があります。そのような理由で私にとっては寺社巡礼の一環であります。

なぜ出掛けようと思ったのかといいますと、西国4番の施福寺に行く途中に出会った女性が勧めてくださったからとしか言いようがありません。彼女は山登りが趣味の方で、施福寺へ行く山道を登山のトレーニングに活用しているという方でした。そして彼女に「富士山は山小屋などの設備が充実しているし、子供も行っているからそんなに構えなくても大丈夫よ。頂上には神社もあって、ご朱印も頂けるよ。」と教えていただいたので、ちょっと行ってみたいなあと思いました。

その後、計画を立てる段階でいろいろ調べてみると、普段登山をしない素人が一人で行くのは危険であると判断し、ツアーに申し込み出掛けました。ツアーの参加者には山登り愛好家のようなグループの方、家族連れ、一人で申し込んだ人などいろいろな方が参加していました。多少体力的な不安があったものの、行ってみると楽しいものでした。富士山の頂上には教えていただいた通り、神社が2カ所あり、ここで目的の御朱印を頂いてきました。写真5に示します。

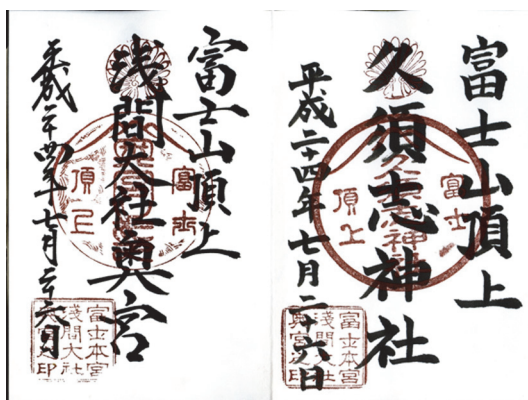


写真5 富士山で頂いた御朱印

◆仏像拝観の旅

札所巡礼だけではなく、観光ガイドを参考にいろいろな寺院に出掛けます。この時に私が比較的重視している点は縁日と仏像拝観です。

縁日とは、特定の神仏に縁のある日です。この日にお参りすると、特に御利益があるとか言われることが多い日です。有名なのは、弘法大師の21日、天神様の25日、観音様の17・18日などです。寺社にもよりますが、特別な催し物や出店などがあつたりします。京都の東寺では毎月21日が弘法市として、同じく京都の北野天満宮では毎月25日に出店が出ています。買い物をしたりしながら眺めているだけでも楽しめます。

寺院には当然ですが、仏像があります。ですから寺院へ出掛けると必然的に仏像を拝観します。寺院ではお厨子の中に鎮座されていることが多く、御前にはお供え、お花、その他法具類などが飾り付けられています。照明は外よりも暗いことが多いため、像が見えにくいと感じることもあります。そこで寺院にて拝観する際は像だけではなく周囲の環境も含めて楽しむことにしています。堂内は、天井・柱・欄間などに彫刻や絵が施されていますのでこちらも忘れず眺めるようにしています。寺院によっては仏像を含めた寺院の説明・解説をしてくださることもあります。寺院に仏像拝観を主として出掛ける時の注意点は、寺院により仏像の拝観可能日が指定されていることがあるところです。

ちなみに仏像をみることができる場所がもう1ヵ所あります。それは、博物館や美術館です。日本美術の彫刻の分野では仏像彫刻は、大きなウエイトを占めているそうです。仏像の一部は国から国宝や重要文化財の指定を受けているものもあります。

通常仏像は博物館へ出品される前には、慣例として「発遣法要(はっけんほうよう)」という儀式が行われます。仏像の「魂を抜く」とか「お性根を抜く」という言い方もされています。この儀式は、仏像を一時的に開眼供養以前の状態、すなわち彫刻に戻すための儀式であると言

えます。そのため博物館に展示されている仏像は彫刻として鑑賞することが可能になります。また、博物館では前面からだけではなく、側面、背面からもじっくりと見ることができます。ただし私が注意していることもあります。以前、展示室の壁に面して仏像が展示してある時に背面が少し見えにくいと思い、横から身を乗り出すように鑑賞していたら、学芸員さんに注意されてしまいました。以後、博物館では学芸員さんに注意されない距離を見計らいながら鑑賞するようにしています。

少し余談ですが、博物館の収蔵品は館蔵品と寄託品という大きな2つの柱からなっているそうです。館蔵品は、主に購入、寄贈という方法で集められた品で成り立っているそうです。購入は、館の予算の中から目的に応じて作品を購入することです。寄贈は所蔵者の篤志により作品が博物館に寄贈されることです。また、寄託品は博物館が寺社等の持ち主から文化財を預かり保管している品であるとのことです。博物館には、仏像以外にも、様々な品が展示してあるのでこれらも同時に鑑賞し楽しむこともできます。

個人的に好みの仏像ベスト3をあげると、大阪の観心寺の如意輪観音坐像(拝観日要注意)、滋賀の向源寺(渡岸寺観音堂)の十一面観音立像(通常はいつでも拝観可能)、京都国立博物館に展示されている宝師和尚立像(寄託品、展示替えの都合で拝観できないときがある)です。他にもすばらしい仏像は各地にたくさんあります。

◆旅行中印象に残ったこと

巡礼地に行くときは、観光を兼ねて出掛けているため、目的寺院以外の近隣の寺社へも参拝します。その地域のガイドブックと一緒に観光できる所はないかを調べます。

巡礼地へ出掛ける手段は大きく2つに分けられます。自家用車を利用するか、公共交通機関を利用するかです。

私はいつも公共交通機関(列車・バス等)を利用し出かけています。中にはロープウェイやケ

ーブルカーが整備されている場所もあります。また、連絡船や遊覧船に乗っていく場所もあります。事前に交通手段と列車・バスの時刻を調べます。田舎の方は1日当たりの列車・バスの本数が少ない場所もあるため、田舎へ行くときは特に事前の調査の必要性を感じます。寺院によっては「最寄り駅より徒歩1時間」とガイドブックに記載されている所もあります。

公共交通機関のうちバスの思い出を少し述べます。私がここで挙げているバスは高速バスではなく、路線バスを指します。路線バスを利用するときは、インターネットで路線図・時刻表を調べるようにしています。その時に一緒に運賃を確認すればいいのですがいつも運賃を確認し忘れています。たいていの路線バスは距離に応じて、どんどん運賃が上がっていきます。そして1時間くらい乗っていると、だいたい1000円を超えます。路線バスに乗っている時は降りるときに運賃がいくらになるかわからないため結構ドキドキします。そして降りるバス停を間違えないように車内放送にも注意する必要があります。

路線バスの中でも地方ではコミュニティバスのお世話になります。こちらは地方自治体が地元住民のために運営(バス会社への委託運営と思われる)しているバスです。そのために運賃が格段に安く設定されている感じがします。1時間ほど乗車していても300円くらいだったこともあり、びっくりしたことがあります。コミュニティバスの車内を観察すると運転手さんと地元住民の方は顔見知りであるために、降車ボタンで降りるバス停を知らせなくても目的地のバス停で降ろしてくれます。私も運転手さんに目的地(私の場合はこれから参拝しようとしている寺院か列車に乗るための最寄り駅)を言っ

て降車ボタンを押さなくても目的地で降ろしてもらったこともあります。余談になりますが、列車の最寄り駅と寺院を結ぶバスの中には本数が極端に少ない所があります(1日2～5往復くらい)。こういった路線では往復とも同じ運転手さんになることがあります。運転手さんは往路に乗せたお客が復路に乗っていないときは、一応心配してくれますが、定刻通りに発車します。

◆最後に

一人旅でも特に巡礼旅だと行く先々の方々が親切にしてくださいませ。同じように巡礼旅をしている人とは、道中、話をすることもあります。その話をきっかけに次の行き先を決めたりします。道中はいろいろと親切な人に支えられて旅が成り立っていると感じます。様々な出会いを大切にしながら旅が続けていけば良いなと思っています。

参考資料

- 1) 中山和久著. 巡礼・遍路がわかる事典. 東京: 株式会社日本実業出版社, 2004/11/20
- 2) 西国三十三ヶ所めぐり. 東京: 昭文社, 2007/7/1
- 3) 淡交社編集部. 決定版 御朱印入門. 京都: 株式会社淡交社, 2008/12/22
- 4) るるぶ情報版. 四国八十八ヶ所. 東京: JTB パブリッシング, 2013/10/15
- 5) 国宝入門. 月刊一個人, No.126, KK ベストセラーズ, 2010/9/26
- 6) 佐々木利和, 松原 茂, 原田一敏, 編. 博物館展示論. 東京: 財団法人放送大学教育振興会, 2012/3/20
- 7) 京都国立博物館, 編. 美のかけはしー名品が語る京博の歴史. 京都: 京都新聞社, 2006/7/15

読者の方にはさまざまな趣味をお持ちの方がおいでかと思えます。
編集室では本コラムへのご投稿を心よりお待ちしております。